

# 国語科学習指導案

単元名 **バリアフリーもの知り事典をつくろう「もうどう犬の訓練」**

学年 第3学年1組 男子20名 女子20名 計40名

指導者 呉市立昭和中央小学校 若生 明子

## 1 単元について

### 単元について

本単元は、学習指導要領Cエ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」を受けて設定した。

教材文「もうどう犬の訓練」は、犬の特長と盲導犬の定義が述べられた後、具体的な訓練の内容や身につける心構えが、順序や時期、期間を表す言葉によって訓練の段階の順番に説明されており、文章全体の構成が分かりやすくなっている。また、中の説明では、定義と具体例が区別して書き分けられているため、要約するためのキーワード探しも取り組みやすいと考える。

単元を貫く言語活動として、総合的な学習の時間と関連付け、体の不自由な人を助けているものや動物について調べ、「バリアフリーもの知り事典」を作る活動を設定した。

### 児童の実態

本学級の児童は、5月に「自然のかくし絵」で大事な言葉を見つけながら内容をとらえる学習をした。7月教材『『ほげんだより』を読みくらべよう』では、二つの文章を読み比べ、書き手の意図を考える学習をしている。

1学期のまとめテスト（説明的文章）の結果は以下の通りである。

評価	A	B	C
得点	95以上	80～95未満	80未満
割合	21%	45%	34%

誤答が最も多かったのは、大事なことをまとめながら読む問題であった。何を伝えたい文章か、筆者の意図を考えながら読むことができていない。また、読み取ったことを表にまとめる問題も誤答が多く、大事な言葉や事柄を落とさず読む力に課題があると言える。

### 指導にあたって

指導にあたっては、まず、単元の導入で「バリアフリーもの知り事典」を作るという学習のゴールを示し、めあてをもたせて意欲付けを図る。作った事典は図書室に展示して他学年の児童に見てもらふこととし、相手意識、目的意識をもって取り組めるようにする。

教材文の読み取りでは、文章構成を意識しながら読ませるために、文章全体を「はじめ」、「中」、「終わり」に分け、「はじめ」と「終わり」に着目させて筆者の伝えたいことを考えながら読ませる。そして、順序や時を表す言葉を見つけさせ、どのような訓練をするかつかませる。訓練内容の要約では、「たとえば」という接続語を手掛かりに、定義と具体例に分けさせ、事例のまとめとなる文が中心文となることを押させる。中心文に線を引かせたり、大事な言葉に印をつけさせたりして、大事な言葉を落とさずに短くまとめさせるようにする。

まとめた要約文はもの知りカードに書き溜め、事典のページにしていくとともに、並行読書しながら調べたい事柄を決めて付箋をつけさせておき、事典づくりにスムーズにつなげたい。

### 小中一貫教育で大切にしていること

昭和中学校区は、「基礎・基本」定着状況調査において「読む」に課題が見られた。説明的文章では「段落相互の関係をとらえる力」の向上が必要となっている。そのため、文章構成をとらえさせるとともに、指示語や接続語の役割をしっかりと理解させるようにしていく。

## 2 単元の目標

《国語への関心・意欲・態度》

- 体の不自由な人を助けるものや動物について調べるため、本や資料を進んで読もうとする。  
《読むこと》

- 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約することができる。

《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》

- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解することができる。

## 3 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言葉についての 知識・理解・技能
【単元を貫く言語活動】 <b>バリアフリーもの知り事典を作ろう</b> 「記録や報告の文章，図鑑や事典などを読んで利用する言語活動」を通した指導 イ		
○ 「バリアフリーもの知り事典」を作るため、体の不自由な人を助けるものや動物について書かれた本や資料を進んで読もうとしている。	○ <b>体の不自由な人を助けるものや動物について書かれた文章を，大事な文や言葉を見つけながら読み取り，要約している。</b> ウ	○ 指示語や接続語が，文と文とを関係付けたり，段落相互の関係を表したりすることを理解している。 イ(ク)

## 4 設定した言語活動を通して育てたい力

「バリアフリーもの知り事典」を作るために、調べた本や資料の文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約することができる。
--

## 5 指導と評価の計画（全11時間）

次	時	学習活動	評 価				
			関	読	言	具体的評価規準	評価方法
一	1	・ 単元のめあてを知り，教材文を通読して感想を書く。	○			・ 「バリアフリーもの知り事典」を作る活動に興味を持ち，進んで教材文を読もうとしている。	ワークシート 行動
	2	・ 単元計画を立て，語句の意味調べをする。	○			・ 「バリアフリーもの知り事典」を作るために進んで計画を立て，語句を調べて教材文を読み取ろうとしている。	ワークシート 行動
二	3	・ 教材文を「はじめ」，「中」，「終わり」に分け，大まかな内容を捉える。		○	◎	・ 順序や時を表す言葉や指示語，接続語を手がかりに，教材文を「はじめ」，「中」，「終わり」に分けている。 ・ 教材文の大まかな内容を読み取っている。	ワークシート
	4	・ もうどう犬はどのような犬か要約する。		◎		・ もうどう犬はどのような犬か，大事な文や言葉を落とさずに要約している。	ワークシート もの知りカード

	5	・ 人間の言うことにしがたう訓練について要約する。	◎		・ 人間の言うことにしがたう訓練について、大事な文や言葉を落とさずに要約している。	ワークシート もの知りカード
	6 (本時)	・ 人を安全にみちびく訓練について要約する。	◎		・ 人を安全に導く訓練について、大事な文や言葉を落とさずに要約している。	ワークシート もの知りカード
	7	・ もうどう犬にふさわしい心がまえについて要約する。	◎		・ もうどう犬にふさわしい心がまえについて、大事な文や言葉を落とさずに要約している。	ワークシート もの知りカード
三	8 9	・ 本や資料から、体の不自由な人を助けるものや動物について知りたい事柄を調べる。	◎	○	・ 体の不自由な人を助けるものや動物について書かれた本や資料を進んで読もうとしている。 ・ 大事な文や言葉を見つけながら、本や資料を読んでいる。	ワークシート 行動観察
	10	・ 調べたことを要約し、「バリアフリーもの知りカード」を作る。	◎		・ 本や資料から調べて分かったことを、大事な文や言葉を落とさずに短く要約している。	もの知りカード
	11	・ カードを読み合い、「バリアフリーもの知り事典」にまとめる。	○		・ ページの順序を決めて「バリアフリーもの知り事典」を作るため、「もの知りカード」を進んで読もうとしている。	ワークシート 行動

## 6 本時の目標

- 人を安全に導く訓練について、大事な事柄に注意しながら読み、要約することができる。

## 7 学習の流れ

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
導	1 前時の学習内容と本時のめあてを確認する。	◇ 人間の言うことにしがたう訓練について要約したことを想起させ、本時につなげる。	
入	人を安全にみちびく訓練で、犬は何を教えられるのか要約して「もの知りカード」にまとめよう。		
展	2 9～12 段落を音読する。	◇ 盲導犬ができるようになることを見つけながら読むよう促す。	
開	3 10～12 段落の文の数を確認し、それぞれの中心文を考える。	◇ 形式段落の文の数を数えさせ、それぞれいちばん大事な文はどれかを考えさせて線を引かせる。 ◇ 繰り返し出てくる言葉や言い換えられている言葉などの大事な言葉は○で囲ませる。 ◆ 「犬は」を主語として、されることや「教えられる」ことを本文から見つけさせ、大事な文を考えさせる。	

<p>4 中心文をつなぎ、犬を安全に導く訓練について要約する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別で考える</li> <li>・話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 中心文をもとに、大事な言葉を落とさないようにつなげる。</li> <li>◆ 机間指導を行い、文のつなぎ方を個別支援する。</li> <li>◇ 11, 12 段落では、接続語「たとえば」のあとは具体例であることから、はじめの一文が中心文であることを押さえる。</li> <li>◇ 訓練が必要な理由が、具体例として書かれていることに気づかせる。</li> </ul>	
<p>5 人を安全に導く訓練について要約した文をカードに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「バリアフリーもの知り事典」のページにできるよう、「もの知りカード」に書かせる。</li> <li>◆ 大事な文とキーワードを色チョークやカードで板書に残す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を安全に導く訓練について、大事な文や言葉を落とさずに要約している。</li> <li>〔読む能力〕 (ワークシート・もの知りカード)</li> </ul>
まとめ	<p>児童のまとめの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を安全にみちびく訓練で、犬は「ハーネス」という器具をとりつけられ、あぶないもの前で止まったり、それをよけて進んだりすることや、きけんな命令にはしたがわれないことを教えられる。</li> </ul>	
<p>6 本時を振り返り、次時につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 単元計画表のふり返し欄にチェックをさせる。</li> <li>◇ 次時は「もうどう犬にふさわしい心がまえ」について要約すること伝える。</li> </ul>	

8 板書計画

**まとめ**

人を安全にみちびく訓練で、犬は（ ）を教えられる。

教材文 九〜十二段落 拡大掲示

**一人読み**

めあて

人を安全にみちびく訓練で、犬は何を教えられるのか要約して「もの知りカード」にまとめよう。

**話し合い**

- 「ハーネス」という器具をとりつけられる。  
理由：犬の動きを伝えるため
- あぶないもの前で止まったり、それをよけて進んだりすることを教えられる。  
たとえば
- ・ だんになつてゐる所 ↓ 一度止まる。  
理由：つまずいて転ばないように
- ・ 電柱 ↓ 上手によける  
理由：ぶつからないように
- きけんな命令にはしたがわれないことを教えられる。  
たとえば
- ・ 自動車が走ってくる所で「ゴー」  
理由：あぶないときは、「ゴー」と言われても前へ進まないことをおぼえるため

写真①

写真②

写真③

写真④

写真⑤